

令和2年度第2回仙台市認知症対策推進会議 議事録

開催日時：令和3年2月2日（火）18時30分～20時00分

開催場所：仙台市役所 8階ホール

【委員（五十音順・敬称略）】

（出席者）

- 赤間 恵美子（公益社団法人宮城県看護協会）
芦名 洋美（仙台市地域包括支援センター連絡協議会）
阿部 哲也（認知症介護研究・研修仙台センター）
伊藤 あおい（特定非営利活動法人宮城県認知症グループホーム協議会）
岩渕 徳光（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）
黒井 里美（特定非営利活動法人宮城県ケアマネジャー協会）
小牧 健一郎（一般社団法人仙台歯科医師会）
佐々木 薫（認知症介護指導者ネットワーク仙台）
清治 邦章（一般社団法人仙台市医師会）
丹野 智文（おれんじドア）
福井 大輔（みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会）
戸次 有一（仙台市老人福祉施設協議会）
南 研二（宮城県精神保健福祉士協会）
山崎 英樹（仙台市認知症疾患医療センター いずみの杜診療所）
若生 栄子（公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部）

（欠席者）

- 大嶽 友和（仙台弁護士会）
鈴木 佐和子（宮城県老人保健施設連絡協議会）
高橋 将喜（一般社団法人仙台市薬剤師会）
原 敬造（一般社団法人仙台市医師会）

【事務局】

仙台市健康福祉局

各区保健福祉センター障害高齢課

【オブザーバー（順不同・敬称略）】

仙台市認知症疾患医療センター

東北福祉大学せんだんホスピタル 医師 高野 毅久

東北医科薬科大学病院 医師 古川 勝敏

仙台市健康福祉事業団介護研修室

宮城県保健福祉部長寿社会政策課

【会議概要】

1. 開会

2. 挨拶（健康福祉局保険高齢部長）

※議事に入る前に、山崎議長より次の確認が行われた。会議の公開・非公開の確認について、公開とすることを委員より異議なく了承された。また、議事録署名人について、黒井委員とすることを委員より異議なく了承された。

3. 議事

認知症対策の主な取組み状況と今後の取組みについて
（事務局より資料 1, 2, 3 について説明）

（山崎議長）

本日予定していた議事は以上となる。

4. 報告

(1) 仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）について
（事務局より計画案について説明）

(2) その他（関係機関からの取組み報告）

① 地域包括支援センター連絡協議会 芦名委員

地域包括支援センターでは、コロナ禍により、地区社協や老人クラブなどが感染予防対策で活動を自粛しており、課題となっている。地域包括支援センターが日々活動する中で、高齢者のサルコペニアやフレイルが増えている状況に危機感を覚えている。活動場所がなく家に籠るしかない状況で、これまで何とか生活できていた方々が、ちょっとした段差につまづくようになったとか、転んでしまったとか、最悪の場合は転んで骨折してしまい入院しているなど、多数の相談が上がってきている。地域活動がほとんど自粛されている中でも、高齢者は地域で生活しており、地域包括支援センターとしてどのようにして高齢者支援・認知症対策に関わっていけるかを日々検討して

いる。

地域包括支援センターは認知症サポーター養成講座や認知症カフェ、介護予防教室などで認知症をテーマに活動している。認知症サポーター養成講座については、コロナ禍でほとんど開催できていない。地域に向けてサポーター養成講座の開催について案内をしているが、コロナ禍で人が集まることに了解を得られないなど、開催できていない。そんな中で、小中学校や児童館では、学校と地域包括支援センターがこれまで作り上げてきた関係の中で、サポーター養成講座を受け入れていただき、講座が開催できていることは喜ばしく思う。

また、認知症カフェについても、開催できているところは少数だと聞いている。しかし、地域包括支援センターが地域に寄り添い、安心して参加できる状況を作って開催しているカフェもいくつか出てきている。参加者からは「皆に会えること、会って話をできることはいいよね」といった声がたくさん聞かれる。参加者の表情を見ると我々の活動は必要なものだと感じる。

介護予防教室では運動だけでなく、認知症をテーマにした講座も開催している。その講座で地域の認知症サポーターに講師として参加していただいた事例があった。講師の方は地域に住んでいる方で、すでに認知症カフェでもパートナーとして活動しており、我々が認知症の話をするよりも、より参加者の心に入っていきよう、聞きながら話を聞いていた。今後も地域の認知症サポーターと協力して活動していきたいと考えている。この講座開催にあたって、参加人数を制限して開催したが、申込みが多く抽選を行った。これまで定員を切ることが多かったが、行く場所がない、集う場所がないということで多くの申込みをいただいたようだ。

これまで通りできないのであれば、できないなりに包括支援センターの職員も工夫を凝らして地域支援活動を継続して参りたい。皆様の協力をお願いします。

② おれんじドア 丹野委員

おれんじドアでは今年度も認知症カフェへの当事者派遣を行っており、そこで当事者が話をしている。認知症カフェへは当事者が自分で予定を決めていく。今は、私が訪問するのではなく、他の当事者に行ってもらうかたちで事業を進めている。実際に訪問して、当事者が一人でしゃべることができないわけではないが、緊張してしまйнаかなか難しいこともある。そのため、当事者3人程度でグループを組んで話をする、失敗しても気にならず、楽しく話も盛り上がる。

認知症カフェに訪問した当事者に感想を聞くと皆「良かったよ」とは言うが、次に自分が行ってみたいか聞くと、そうではないこともある。だから、認知症カフェが認知症の人の行きたい場所になっているのかなというのが、実際に当事者に認知症カフェに訪問してもらった感想である。

おれんじドアの集まりは会場である東北福祉大が建物内に入れないので、夏の間は外のオープンテラスを使って開催した。当事者が外に出て本人同士が話をすることで

すごく元気になる。私はコロナに感染するリスクよりも、鬱になるリスクの方が怖いと思っていて、感染症対策をして、とにかくやり続けている。

また、いずみの杜診療所のピアサポート活動も一時休止はしたが、できる限りずっと続けている。認知症と診断されて沈んだ人が、当事者同士で出会って、話をして笑顔で帰っていく。やり続けることが大事だと思っている。また、Zoomを使った当事者同士の女子会もやっている。当事者が Zoom 等を使えないということはなく、使い方さえ覚えてしまえば、皆使える。研修会や勉強会でも、直接参加できない当事者がいても、Zoom 等を使って参加している。私自身も講演会など中止になっているので、活動はほとんどが Zoom 等になっているが、いいこともあった。全国の当事者や不安を持った人が、気軽に繋いでくれるようになり、今、当事者同士がどんどん繋がって、元気になるようなことを続けている。

また、ICT を活用した夜の Web 会議が増えている。講演会もそうだが、サポーター養成講座なども、仕事で日中参加できない人でも、Web 会議で 20 時開始なら参加できる人はたくさんいる。ある東京の法人だが、法人内の各地の事業所を全て Zoom で繋いで、そこで私が話をした。事業所のおじいさんやおばあさんが 150 名程参加し、その人たちと話をしてすごく盛り上がった。ただ家にいるだけではだめで、人との繋がりが途切れないようにどうするか、考えていかなければいけない。よく、Web 会議は人のぬくもりが感じられないからダメとか聞くが、そんなことはない。ICT を駆使して当事者のつながり、人とのつながりを継続すれば、コロナが収束してまた会えた時に、変わらずに笑顔で会えるのではないかと思っている。

③ 認知症の人と家族の会宮城県支部 若生委員

認知症の人と家族の会宮城県支部の今年度の取り組みについて報告する。まず、仙台市から委託を受けて実施している電話相談は、月曜から金曜の 9 時から 16 時で実施しているが、コロナ禍であっても休まずに実施できた。今年度は市政だよりに掲載したこともあるが、コロナ以前に比べて相談件数は増えた。コロナ以降の相談内容は、認知症の介護や認知症について不安に思う当事者からはもちろんだが、財産に関する相談やストレスが溜まってしまいどうしようもないといったものも増えている。特に顕著なものは、男性からの相談の増加である。今までは女性からの相談が多かったが、男性介護者からの相談が増えている。男性が介護者となった戸惑いや、女性を介護するうえでの課題などを相談されることが多い。私どもで対処しきれない内容については、解決とはいかなくとも、様々なところに繋ぎ、少しでも心が穏やかになっていただけのようにしている。

次も仙台市の委託事業だが、認知症の介護講座と相談会についても、予定していた 10 回を無事開催することができた。これも継続できたことが有難かった。実施するにあたって、予約制としたり、人数制限をするなど対策をした。

また、11 月 14 日には世界アルツハイマーデー記念講演会を開催した。これは登壇

者、関係者以外は無観客で実施し、撮影した様子を5月までYoutubeで配信しており、DVDも作成し関係者に配布し、活用いただいている。

本人と家族のつどいである「翼」は、感染が拡大した3月から5月はどうしても休まざるをえず、休止した。しかし、少し落ち着いた様子が見えてきた6月には、感染対策を施して開催し、これまで継続している。コロナ禍ではあるが、認知症の当事者あるいは家族が、仲間と会い元気になっていくことが大切と考えている。これがなければもっとストレスが溜まってしまい、例えば虐待やネグレクトになってしまうのではという、切羽詰まった雰囲気を感じている。つどいが休みの間は翼かわら版を発行したり、お便りを出したり、頂いた返信を皆で共有したりと、絆を切らさないようにした。

5. 閉会

(事務局)

事務局より連絡をさせていただく。次回、令和3年度第1回認知症対策推進会議は令和3年8月頃の開催を予定している。また、委員の皆様の任期は令和3年7月31日までとなっており、次年度は委員改選の時期となっている。詳細については各団体へ後日改めて連絡させていただく。

以上をもって、令和2年度第2回認知症対策推進会議を終了する。